

大崎住民訴訟を支援する会ニュー入第 19 号(2022 年 7 月)

事務局 電話番号：070-2010-3777 〒981-3215 仙台市泉区北中山 3 丁目 17-12

事務局アドレス osaki.shien@gmail.com <https://www.facebook.com/osaki.shien>

大崎住民訴訟の論戦の中心は内部被曝論へ

弁護団、DVD「核の傷」法廷上映と西尾正道氏の証言を要請

放射能汚染廃(稲わら・牧草)焼却中止を求める大崎住民訴訟弁護団は、今後の論戦の中心を「内部被曝」と考え、DVD「核の傷」(肥田舜太郎医師と内部被曝)の法廷上映と(独)国立病院機構北海道がんセンター名誉院長の西尾正道氏の証言を求めています。

今ニュースでは、西尾正道氏の「内部被曝」の考え方を、氏の陳述書をもとに紹介します。

放射線は細胞を死滅させ、またDNAに損傷を残し癌化を引き起こす

放射線が生体に照射されるとその部位で細胞が傷ついて細胞の分裂過程で死滅する。逆に放射線が照射された場合には、細胞分裂機能に影響し、DNAに損傷を残し、その細胞が一定の時間をかけて突然変異をおこして細胞のがん化がおこり、それが進んで組織のがん発生へと進むことがある。私は、セシウム(Cs-137)やラジウム(Ra-226)を針状又は管状等に加工した低線量の線源を使用して、舌がんや食道ガンを中心として、ほぼすべての臓器のガン患者さんの治療を行ってきたが、その際は線源中心から5mmの部位の線量で計算し治療を行ない、がん細胞を死滅させ、その外側の正常な細胞への健康被害を最小限に制御する治療を行ってきた。

水溶性は主に脳と心臓に、不溶性は各種臓器に被害を与える

内部被曝は体内に入った放射性微粒子によって引き起こされる。放射性微粒子が水溶性である場合と不溶性である場合は内部被曝のメカニズムが異なる。水溶性の場合は血液やリンパ液に乗って全身に運ばれる。血液の最も集まる場所として脳と心臓に被曝が深刻化し、これにまつわる突然死などが報告されている。不溶性の場合は体内の1カ所に留まり「局所的継続的」な被曝被害をもたらす。

放射線の線源を微粒子の形で身体の内に取り込んだ場合は、取り込まれた臓器の一定箇所の狭い範囲の細胞は、その粒子から360度全方向に、局所的かつ、持続的継続的に放射線の被ばくを受けることになり、生命・健康に対する悪影響(準備書面(4)等で指摘した分子切断に起因する)が生まれる。また核種によっては臓器親和性があり、取り込まれた放射性微粒子は長く留まり被曝するのである。

放出した核エネルギーがその飛程距離の中に全て吸収され周辺細胞を攻撃することを意味しており、その影響は甚大である。そのエネルギーの大きさは、人体の分子を結合させている電気化学的エネルギーの数千倍から数万倍のエネルギーであり、周辺細胞は甚大な影響を被るのである。

大崎住民訴訟

次回期日(口頭弁論)

日時=2022年7月25日(月)13時半～

仙台地方裁判所

報告集会=弁護士会館

焼却炉周辺住民に、がん死のリスクが高い

英国生態医学学会誌に掲載されたスペインの論文

西尾正道先生の紹介資料に、英国生態医学学会誌(2013 年)に掲載されたスペインの論文があります。1997 年から 2006 年の 10 年間スペインの 129 廃棄物処理施設(うち 14 施設が焼却炉)を調査した結果、2007 年 1 年間に 129 施設より排出された有害物質は大気中に 525,428 t、水系に 4984t で、焼却炉周辺住民にはがん死のリスクが高いこと、また金属スクラップ施設・廃浴槽処理施設周辺でも有意に高いリスクがあることが判明しています。

大崎住民訴訟陳述書でも焼却炉周辺住民の不安訴える

上記焼却炉施設では放射能汚染物質は焼却されていません。それでもがん死の確立が高まるのですから、一般焼却炉で放射能汚染廃を燃やしたら不安が高まるのは当然のこと。昨年 10 月裁判所に提出した小沢和悦氏の陳述書では次のように指摘しています。

「圏域最大規模の焼却施設大崎中央クリーンセンターの煙突から煤塵等が飛散する地域は、子育て世代が多く住む人口約 4 万人の地域です。その地域で長期にわたる放射能汚染農林業系廃棄物焼却による放射性物質による人体への影響、農作物への影響に多くの住民は不安を持って生活しています。河北新報の紙面で福島・宮城・岩手 3 県の主だった地域の放射線量を報道しています。0.1 μ Sv/h 以上は福島県の数か所だけ。ところが、私たちの住む大崎圏域の焼却炉周辺では、たびたび 0.1~0.16 μ Sv/h を記録しています。福島県が高いのは原発事故が直接の原因であることは疑いありません。私たちの住む地域の場合、放射能汚染農林業系廃棄物焼却以外にその原因は考えられません。」

「10万馬力の鉄腕アトム」は真実

セシウムのベータ崩壊エネルギーは化学反応の10万倍

放射性セシウムは人の体内に入り込んで放射性崩壊を起こし、ベータ線を飛ばします。飛ぶ距離は 2 mm 程度ですから、周辺だけが破壊されます。そのエネルギーは 512KeV(512,000eV) (eV=電子ボルト)。水素が燃焼して水になる時($H_2 + 1/2O_2 = H_2O$)の燃焼エネルギーは 3 eV。すなわち 1 個のベータ崩壊は化学反応の 10 万倍だということがわかります。水素の燃焼エネルギーの 10 万倍のエネルギーで何度も破壊されるのですから、細胞が死滅したり癌化するのは当然の結果と言えます。お茶の水博士の作った鉄腕アトムが「10 万馬力」と歌われていたのは正解だったのです。

ちなみにトリチウムのベータ崩壊時のエネルギーは 5.7 KeV。セシウムの百分の一ほどのエネルギーなので、「エネルギーが小さいから安全」などと言う学者が現れます。それでも水素燃焼の 2 千倍ですから無視できません。

一番怖いのがウランですが、ウランの崩壊エネルギーは 185MeV。セシウムのベータ崩壊の 361 倍、水素燃焼の 6 千万倍。途方もないエネルギー量です。だから原子炉事故は恐いのです。

